

日本療養病床協会 看護・介護委員会「看護と介護の連携に関するアンケート」  
集計結果に対する考察

看護・介護委員会委員長 中川 翼

この委員会の担当副会長であるということで私が意見を述べることになった。ご了承いただきたい。

このアンケートは、このたび看護・介護委員会ができたということでまず全国の会員病院の実状を知ろうということで企画された。対象は日本療養病床協会会員病院中717病院であった。アンケートの設問は川添チエミ氏(嵯峨野病院看護部長)、服部紀美子氏(定山溪病院看護部長)が中心になり、委員会で決められたものである。職種別に質問されておりなかなか興味深い結果が出ている。順番にコメントさせていただきたい。

1. 看護職と介護職の連携はできているか。

全体では「大変よく連携できている」11.8%、「まあ連携できている」76.0%。あわせて87.8%で肯定的な回答であった。興味深いのは「大変よく連携ができている」の割合が病院長で最も高く27.5%、看護部長、看護師長、看護職、介護職の順で低下しており、介護職では9.9%であったことである。病院長が考えるほど現場での連携は容易でないことを示していると思慮する。この結果「あまり連携できていない」が看護職11.2%、介護職12.5%であった。

2. 連携を図るために実践していることで重要と思われること

優先順位1~3に分けてかなり詳細に質問している。優先順位1位の中では「申し送りにできるだけ全員が参加するようにしている」が25.8%と最も多かった。ただし、優先順位を付けるのは回答者もかなり頭を悩ませたのではないと思われるので、2-順位無回答を含む全体の状況を参考にコメントしたい。多い順に記す(複数回答)。「介護職にもリーダー(責任者)を設けている」65.4% 「申し送りにはできるだけ全員が参加するようにしている」と、「サービス担当者会議(カンファランス)には全職種が参加し、看護・介護双方の意見を出しやすいような配慮を行っている」が共に49.5% 看護・介護合同のミーティングを定期的に月1回以上開催している48.1% 「休憩時間など同じ場所で食事をするようにしている」28.1% 「看護・介護合同で研修会を実施している」27.4% 「職員が自由に記載できる情報交換のためのノート等がある」26.1%であった。驚いたのは、「介護職にもリーダーを設けている」が最も多かったことである。私の頭が古いのかもしれないが、療養病床における介護の重要性が再認識される結果であった。この設問では職種による違いがあまりないように感じた。

### 3. 介護職の「看護職の役割」の理解

これも興味深い設問である。全体では「よく理解している(されている)と思う」15.7%、「まあ理解している(されている)と思う」が72.9%、あわせて88.6%であった。これ自体立派な数字ではあるが、職種別に興味深かったのは看護職と介護職の差である。看護職は「よく理解されていると思う」が9.2%、と低く、「あまり理解されているとは思わない」は14.6%と高かった。介護職は「よく理解していると思う」22.7%と高く、「あまり理解しているとは思わない」が、4.3%と低かった。介護職の看護職の役割の理解が看護職に充分伝わっていない場合があるように感じた。看護職はもっと自信を持ってよいように思われた。

### 4. 看護職の「介護職の役割」の理解

全体で「よく理解している(されている)と思う」21.5%、「まあ理解している(されている)と思う」70.2%であり、あわせて91.7%に達した。これ事態立派な結果であるが、3.の設問と同様、看護職と介護職に差が見られた。看護職は「よく理解していると思う」が28.6%、と高く、「あまり理解しているとは思わない」は3.1%と低かった。介護職は「よく理解されていると思う」が12.3%、と低く、「あまり理解されているとは思わない」は11.6%と高かった。看護職の介護職への役割の理解が介護職に十分に伝わっていない場合があるように感じた。介護職はもっと自信を持ってよいように思われた。

### 5. 看護と介護の役割を表で表した場合、あなたノイメージに近いものを選んでください。

の看護と介護が一部重複する輪が全体で60.5%と最も多かった。2番目に多かったのは、看護という輪の中に介護という少し小さい輪が含まれるというイメージで26.0%であった。これらには職種による差が少なかった。この結果は私にも共感しえた。

終わりに:

日本療養病床協会でもこのようなアンケートを行うのは初めてであろう。とても興味深い結果が出たと思う。関係者の努力に感謝したい。